

香取 淳子

県立長崎シーボルト大学 教授

## 高齢者・聴覚障害者からみた字幕表示のあり方に関する研究

老化による視聴覚機能の低下に伴い、コミュニケーション不全をきたす高齢者が増えている。対人関係での支障が懸念される一方、テレビを理解し楽しむことができなくなることの影響も心配される。というのも、高齢者にとってテレビは日常の情報源であり手軽な娯楽にもなっているからである。そこで本研究では字幕について調査研究を行い、わかりやすい字幕表示のあり方を考えてみた。

本調査研究に先立って、中途失調者に対する聞き取り調査、高齢者に対する聞き取り調査、準キー局に対する字幕についての聞き取り調査、などパイロット調査を行った。

本調査は長崎市および西彼杵郡に居住する 65 歳から 84 歳の 65 名（平均年齢 73.25 歳）を対象に行った。方法は個別面接法による聞き取り調査および 4 種の字幕付きテレビ映像を対象者宅で視聴してもらった反応に基づく実験調査である。

その結果、高齢者にとって見やすい字幕は、文字の大きさ、フォント、文字の間隔、背景色と文字色とのコントラストがおおいに関係していることが明らかになった。総じて、視認性の高いものが好まれ、視線移動の大きいものは負担に感じられる傾向がみられた。字幕は聴覚機能の低下を補償するための視覚表示なのだが、それを読み取るには視覚機能が影響していることが明らかになった。